

新しくなった多治見病院の3つの特徴

1 病院空間のリニューアル

内装材には地元産のタイル、東濃檜、美濃和紙を用いた照明器具を採用し、あたたかみのある空間を創出。各診察室、待合等は、ゆとりあるスペースを確保し、患者さんのプライバシーに配慮した構造となっています。

2 診療機能の拡充

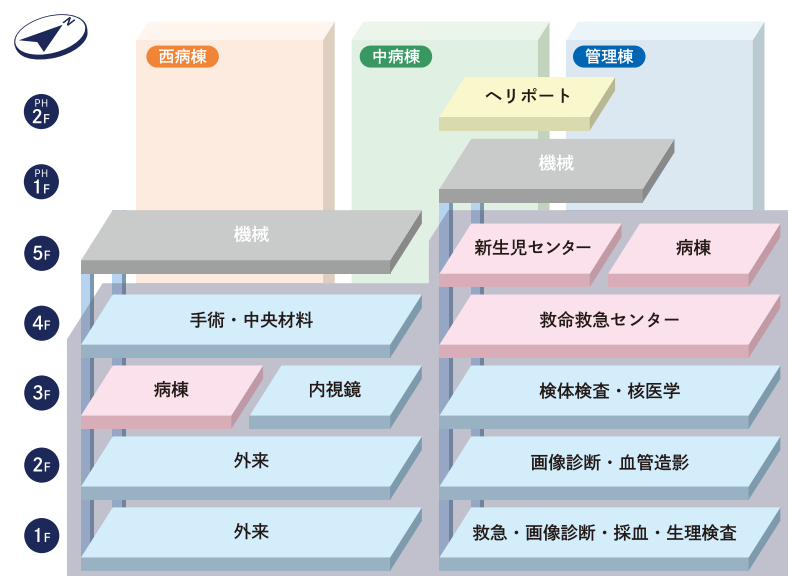
手術室数を8室から11室に増設。手術支援ロボットとハイブリッド手術室も導入しました。中央放射線部、内視鏡室も機能を拡充し、中央放射線部はCT3台のうち1台を高スペック化。MRIは2台から3台へ増設しました。

3 患者さんの負担減

これまで分散配置されていた救命救急センター、外来、中央放射線、臨床検査、内視鏡、手術などの主要機能を集約配置したことにより、外来、検査、手術等の連携が改善。患者さんの負担軽減につながります。

主要機能を集約配置

これまで分散配置されていた外来、検査、手術などの主要機能を集約配置したことにより連携が改善。



新中央診療棟の整備概要

工 期 令和3年9月1日～令和6年1月25日
延床面積 23,893.78m²
構 造 等 地上5階 塔屋2階 鉄骨造 免震構造
ヘリポート設置

けんびょういん

基本理念 安全で、やさしく、あたたかい医療に努めます

新中央診療棟が 2024年4月にオープン



増室し、面積や機能が 拡張された手術室

8室から11室へ増室し、各部屋の面積を拡大。手術支援ロボットの導入やハイブリッド手術室の設置により機能面も充実しました。

手術支援ロボット「ダビンチ」



ハイブリッド手術室



手術支援ロボットを使用した手術では傷口が小さく、出血量も少ないため、患者さんの負担を軽減できます。ハイブリッド手術室では解像度の高い画像を見ながらカテーテル治療や精度の高い手術を行うことができます。



完成した建物内部を 少しご紹介します

4月のオープンに向けて準備中です。

エントランスホール

県産集成材を使用したカーテンウォールや地元産タイルを使用。大きな窓が空間に開放感をもたらします。



総合案内・受付

美濃和紙を用いた照明が温かみを演出。吹き抜けにすることで広々とした空間に。



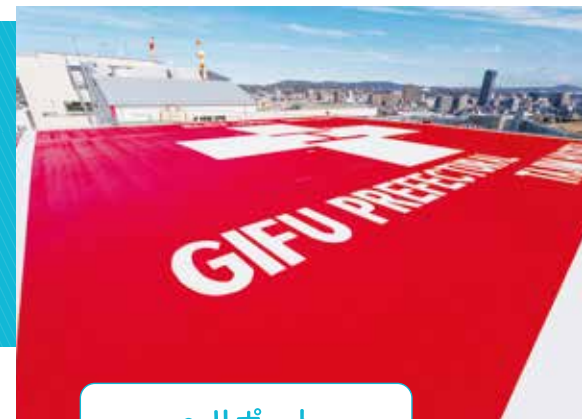
モザイクタイル

受付カウンターごとにそれぞれ違う模様があしらわれています。



ヘリポート

ドクターヘリに加え、防災ヘリも離着陸できるヘリポートを整備しました。



病棟・救命救急センター

外からの光が差し込む、明るく温かみを感じられる空間となっています。

